

# 同窓会報

NO. 34  
1987.11

発行——山形県米沢市門東町1丁目1の72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238-22-0091



岡村喬生歌の旅

今春、学校の中庭に、とうもろこし、へちま、メロン、トマトなど、およそ町中の普通高校らしからぬ「作物」の種を蒔いた。これまで草花を育てるのが普通で、このような実用的な作物を栽培するところなど思いもよらぬことであつた。農業には「素人」の普通高校の庭にへちまがぶらぶら下つて、赤いトマトが熟れているのはなかなか愉快な光景である。

生徒たちものめずらしくて掃除の時間に草とりや追肥に汗を流した。よもやこんなに立派なとうもろこしが実るとは予期しなかつただけに、何枚も重なった皮を剥いで、黄金色の歯並びのいいややかな実が現われた時はすっかり感動してしまつた。しかもとうもろこしの実が茎のわきから出るのかと一大発見をして感動する生徒がいたのにはこちらも驚きであつた。

都会の真中ならいざ知らず、まわりに菜園や本物の畑があるにもかかわらず、心を止めないことに問題があるのであろう。むしろ都會の人の方が意図的に自然を求め、子供たちにも体験させようとしているのではないか。

四季折々に変化する山々に囲まれた置賜の自然は、開発が進行しているとはいえ、まだまだ美しさを残している。心して草花を眺めていると、植物の分布も環境に応じて推移していくのに気がつく。田の畔や空地のところ狭しとのさばる、ヒメオドリコソウや黄蝶のような花びらのオオマツヨイグサに代つて、荒地に勢いよく枝を広げる貧弱な花のアレチノマツヨイグサ。余りにも我がもの顔にはびこる姿を見るといかと思うからである。

山奥の人里で、日本古来の植物に出会うと「負けないで」と声援を送りたくなる。この植物たちといつしょに古来の日本人の心が息づいているのではないかと思うからである。

学園  
近況

今田 良子

## ごあいさつ

校長 九里茂三

卒業生のみなさん。御元気でしようね。お隣様で私も全く元気です。頭はずいぶん白いものが増して、人並に年はとりましたがね。

九月十三日は秋晴れの爽やかな日曜日でした。全校をあげて創立記念日を祝いました。

市長さんも来て祝って下さいました。その節例によつて長年勤続者への感謝状を贈呈いたしましたが、今年はとりわけ副校長の加藤和夫先生と教頭の神原先生が三十年、幼稚園の教頭に転出した小関トシ子先生が二十五年という感謝深い表彰でした。思えばずいぶん年月が過ぎたなあという思いがしました。私の本校でのスタートが二十六年前でしたから、加藤、神原両先生は、その以前からこの学園の苦難の歴史を背負つて来られましたし、小関先生も幼稚園を担当させられて、創立といふ大変な時期からもう八年もの実績をあげられたわけなのです。私としてはすいぶん苦労をおかけしたなあという感謝が一入です。

然しながら自分の経験からして、生徒との出会いや、その後の深い縁つきが教師としての最高の喜びで、他の職種の方には味わえない幸福を味わつて居られるにちがいありません。三十年も過ぎてみれば、その頃のあどけない生徒さんは、もう、もう立派なお母様で、もちろん御子様も高校生、親子二代のおつきあいも数多いことでしょう。

在校時とは



# 同窓の縁は無限に

## ありがとうございました

副校長 加藤和夫

梅雨明け宣言もないまま夏になつたような不順な天候でありました。今はすっかり秋の気配となりました。同窓生の皆さん御変わりありませんか。私も本校にお世話をなつて早くも三十年になりました。過日の創立記念日には、校長先生から大変身に余る感謝状をいただき只々感激致しました。長い間お世話になつたのですから、私の方から感謝申し上げなければならないのに……というのが実感であります。

今にして思えば「アツ」という間の三十年でした。年々歳々同じように卒業生を送りだし、代りに瑞々しい新入生を迎えていたり、いつも同じ年頃の生徒と付き合つてゐるわけですから、自分の老けてゆくのも気付かず生きて來たのです。しかしこの頃、私がこの学校で出会つた懐かしい「昔の生徒さんが、今度は立派な母親となつて父兄会などでお目

すつかり変られた御姿におどろくのが常なのです。同窓の縁はこうして無限に拡がつてゆくのですね。

さて、今や日本はみちがえるほどの変貌を遂げ、国際的にも重要な一翼を荷う存在となりました。高度情報化社会といわれ、技術革新の激しい時代に入りました。然し子を産み育て、また高令者を送るこの人間の営みは少しも変わることはありません。そしてその人間の営みを支えているのは、ほかならぬ女性なのですね。あらゆる変化に柔軟に対応しつつ、人を愛し、子を産み育て、そして家庭の中心となつてるのはやはり女性なのです。

創立者九里とみ先生が、女性のそうした役割の重さを強調され、独立した人間として強く生き抜くすべを教えられたのも、そうした思いがあったからにはなりません。どうぞ御自愛あつて、御幸せな日々を過されるよう祈つてやみません。

振り返つてみると、その時々の先輩同僚の方々から教えられたことは勿論ですが、取り分け授業や自治活動などを通して、生徒との触れ合いの中から学んだことが自分を支える大きな力となってきたと思つております。また、卒業生の社会人としての発言の中からも、数々の教訓を得てきました。心から感謝しております。

教師という一人間の人格形成に大きく影響を与える立場を再認識し、創立者の建学の心を体して、さらに、自己成長のための弛まぬ勉強と新鮮な目を失わぬ努力が大切と自戒し、明日からの生活に邁進したいと思います。

幼稚園教頭 小関トシ子

ご気嫌いかがでいらっしゃいますか。私は九里幼稚園に移つて八年が過ぎてしましました。同窓生のお子様も沢山いらして、私は孫にあたるのでしょうか、親しみも一入で、うれしくお世話をさせていただいております。といつても、近頃の「おかあさんせんせい」は、小さな子ども達に、元気づけられたり、教えられたり、と負うことが多く、子どもと共に学び、育つことのできるしあわせに感謝しているところです。

同窓生の皆様とのおつき合いは、これからも私の人生にとって、色とり豊かな輝きをもつ宝石箱。大切にしたいと思つています。どうぞ健やかにお過し下さいますよ。

にかかることが多くなると、私も確実に年をとっているのだなあと実感できます。素晴らしい生徒達と出会つ事ができた私の三十年間はほんとうに幸せそのものでした。

教頭 神原省治



## 九里学園同窓会

### 62年度・総会に参加して

24年卒 行方絹代

昭和六十二年度九里学園同窓会総会が七月十二日、サンルート米沢で開催されました。今年は、四と五のつく年に卒業した学年が当番ということで、二十四年卒業の私も微力ながら手伝わせていただきました。これまでただ参加するだけでしたが、今回は度々の打合せ等にも参加してみて、母校の事務局の方々の並々ならぬ御苦労を知ることができました。企画、案内状の印刷発送、講師の依頼、出席者の名簿作成等々、それらに伴ういろんな雑事は大変なものでしたが、事務局の皆さんにはいつも笑顔で、当番の私たちに気遣いされながらてきぱきと事に当たっているお姿に接し、只々頭の下がる思いと共に母校のすばらしい教育を改めて感じ入りました。

総会は、二百名近い参加者のもとで盛大に取り運ばれました。引き続き恒例の講演会に移り、今年は「米沢の伊達と蒲生時代」と題して吉田義信先生のお話でした。NHK大河ドラマの「独眼竜政宗」のテレビ場面に触れられながら、面白くお話を下さいましたので大変楽しい講演会でありました。

引き続いでの懇親パーティーでは当番学年が必ず何かやることになつていていたことについて予定していた方が突然出席できなくなり、同窓生の御家族の方にも応援していただくなどして、昭和十年卒の大先輩を中心金剛流謡曲「杜若(かきつばた)」をご披露致しました。若い方には余りなじみがなかつたかも知れませんが、米沢では昔から謡い継がれてきました伝統芸能でございます。続いて歌や合唱があり、終始楽しい雰囲気の中で諸先生や先輩後輩の方々と懐かしいお話を続き、最後

には全員輪になって新旧両方の校歌を合唱して盛会の内に閉会となりました。

年に一度の同窓会に出席して旧交を温め、思い出話や互いの近況を語り合うことは本当に有意義なことと思います。それにつけても

もっともっと沢山の方々に参加していただきためにも、年代を問わず、互いにお声を掛け合つてお誘いするようにしたらいかがでしょうか。終わりに母校並びに同窓会の益々の御

発展を心よりお祈り致します。(旧姓佐藤)

### 学年会に参加して

昭和三十三年卒 前山美江子

(旧姓 黒沢)

去る六月二十、二十一日の一泊二日、藏王温泉、「ホテルかしわや」にて、それぞれの思い出を胸にいだき、久しぶりの学年会が開かれました。「こんにちわ」の挨拶で再会はしてみたものの、心中では、「いまの学生時代とあまり変わっていない人、お話をしているうちに思い出す人、相手の方から説明されて「あら、そうだったの」といつ人、どなただつたかしら……」と考え込み、て懐かしむ人、様々でした。参加者六十余名、参加した喜びをしみじみと味わいながら記念写真に收まりました。会食では、話に花が咲き、部屋中、はちきれんばかりでした。みんな話に夢中になり、準備されたカラオケも眼中になく、せっかくの御馳走も口に入れる暇さえありませんでした。

卒業して二十九年、その後初めてお逢いする人も多いのですが、加藤和夫先生や神原先生、田中先生とお会いすることができすかり学生時代に戻ってしまいました。久しぶりの藏王温泉、雨にぬれた若葉が心

えてくれました。おいしかった竹の子汁、幹の子汁、幹事の一人で藏王の田中さん(旧姓我住)が、ご主人と一緒に採つて来て下さった心温まる御馳走をいただき感謝しております。

幹事の方々がご苦労して下さったお蔭様です。又私達の大先輩とおつしやられる「かしわや」の女将さんと、後輩の若奥様には、それぞれ素晴らしい歌と踊りを、特別にごひろうしていただきましてありがとうございました。会食の後も尽きぬ話に夜の更けのを忘れ話をしていました。

幹事の方々がご苦労して下さったお蔭様で楽しいひとときを過ごすことが出来、良き思い出として心に残る日となり感謝いたします。幹事の皆さん、ありがとうございます。



# 盛会に、別れを惜しんで

## 関東支部同窓会報告

昭和28年卒 池田 ハルエ  
(旧姓 遠藤)

六月十三日、午後三時半、東京上野の精養軒でいよいよ開始。シャンデリアの光の中で華やかな音楽に迎えられたのです。三百名を超える卒業生、現職員、旧職員の皆様をお迎えしました。和やかに、楽し気に、賑やかに、懐しさいっぱいの会場です。御馳走を口に頬張りながら談笑する方達、昔の先生にお会い出来て涙ぐむ方達、あちこちで歌も流れ出しました。やがてそれが校歌や、螢の光や、仰げば尊しの大合唱に、なつかしさをこめての精一杯の歌声になりました。遠く関東地区以外からも馳けつけて来られた方も多いのです。

さて、私達は今年当番幹事として勤めさせて頂きました。昨年の関東支部同窓会の時、この大役を聞かされ、一時はどうしようかと心配でたまりませんでした。昨年の夏からこの日迄私達は十回は集りました。暗中模索の不安の中に、いつか次会に逢える楽しさが湧き上りました。久々に顔を合わせた私達でしたが、三十三年という時の隔りも消えて、すっかり娘時代に帰つてしましました。十七人の表情は喜々とさえして参りました。準備の面倒な話のあとは、米沢弁も飛び出して本当に和やかな雰囲気でした。

いつも細やかな御指導をして頂き、すっかりお世話をなった篠原先生や、先輩や又先生方のお心遣いに、私達はすごく元気づけられました。準備も順調に進み、案内状発送も千五百通にもなりました。最初出席通知が少なく、又束になって返つて来る返送の通知を見ると胃の痛くなる時もありました。か次方に出席通知が次々と到着し、大体の予想数が把握出来た時は全員ホッとした。が当日の受付の混雑、当日の天候、又会費の徴収などを考えると又々胃が痛くなるようでした。殊に当日飛び入りの方が多い場合その方々のお料理をどうしようかなどと考えると取越苦労はつきません。

印象的だったのは最後の準備の日、泣いて

も笑つても今日が最後と思うと、皆んなの胸に過ぎ去った一年の苦労が思い出されたのです。

併しお蔭さまで会は大成功でした。多くの方に誉められたり、慰められたりして私達の苦労は報われたのでした。出席して下さった方々の胸にこの余韻を残したとしたら私達は幸せです。

皆様いろいろと本当に有難うございました。心からおしゃうしなと申上げます。

も笑つても今日が最後と思うと、皆んなの胸に過ぎ去った一年の苦労が思い出されたのです。

卒業して一年経った頃、在学中に図書委員会で活動を共にした仲間達と、お互いに近況を話し合つたり、思い出話をしようと思をかけたのが「図書委員OG会」のはじまりでした。なかなか集まる機会がないのに、一度話が決まるトントン拍子に事が進み、第一回の会合を開いたのは今年の正月でした。

私は三年間、図書委員をして数多くの貴重な体験をしましたが、今一番深く思い出として残っているのは、年一回行なわれた研修旅行です。県内外の高校を訪ねて図書委員同士が交流するのです。図書館の施設設備や図書委員会の活動が優れているという学校を探して出掛けるのですが、そこでは自分たちの足りない面を教えられ、逆に自分たちの活動に自信と誇りを感じて帰つたものでした。



### たくさんのご参加を お待ち致します

昭和六十三年度  
関東支部総会日程決まる

(新卒業生関東在住者激励会)

日時 昭和六十三年六月十一日(土)  
午後四時半

場所 上野精養軒

会費 五、五〇〇円 (新卒業生四、五〇〇円  
運営當番学年は昭和二十七年卒生です)

連絡先 東京都練馬区立野町五-一七

古川つゆ方(三九五元六七七)  
九里学園同窓会関東支部事務局

## 「図書委員OG会」

昭60年卒 平田 妙子

卒業して世間の波にもまれながら生きていきました。そして何よりも嬉しいのは、この活動を通して体得した先輩後輩の強い絆です。むしろそこでは、先輩後輩の厚い壁が取り除かれ、わざわざいよいよの雰囲気で包まれることの方が多かったです。卒業して世間の波にもまれながら生きています。だからこそ、こうして「OG会」を開くこともできたのだと思います。

卒業して世間の波にもまれながら生きています。毎日を、ふと忘れさせてくれる仲間との再会に胸がはずみ現役の図書委員時代に戻つた気持ちで思い出話をしました。



# 遊び心

加藤 孝次郎

皆さん、お元気ですか。今年の夏は例年なく大変過ごしやすい夏でした。梅雨あけの感じもはつきりしない中で夏を迎える、夏らしい暑さを感じた日は数日、最近ではいつか虫の音など聞え、全く秋の装いです。

さて秋ともなれば、私の大好きな釣行にもすばらしい季節です。澄んだ空、徐々に紅葉する周囲の樹々、楽しみも倍加する。この四月、四十年にわたる教師のお役を退き、協会のお手伝いということで、学園の中で気ままに過ごさせていただいている私、思うがままに自分の楽しみを味わえる幸は何物にも代え得ません。健康のためにと、以前より寸暇の間で楽しんだ釣りも、今では私の楽しみの最も大きなものとなってしまった。

自然の中に自身を溶かしこむときの安らぎ青く澄んだ空に流れる白い雲、周囲の樹々の緑、水面に静かに浮ぶ小さな浮子、瞬間の鋭い動き、静と動、自然と人間、全てが一つに溶けこむ様は本当にすばらしい。この思いは経験のない人には理解できないのかも知れない。釣った魚を持ち帰るわけでもない。それを食べる楽しみもないのに、よく、何の為にどこが楽しいの、といわれる。確かに私の釣りの場合、釣った魚は、一日の終りに、ご苦労様、またこの次にねと静かに川に帰してしまうのである。いえ、魚も、川も、周囲の樹々も私の遊び友達、魚ではなく共に楽しい一刻を過ごす遊び友達なのです。

また、私達の釣りにはもう一面の楽しみもある。それは釣行に伴う旅の楽しみです。遠く北陸の地に、または富士五湖、房総の果にと、見知らぬ土地を訪れる楽しみ、職業、年代はちがつても釣りを楽しむ心の同じ仲間達との旅の語らい、楽しさは一潮である。然し、いざ船をもやい、釣り座をしつらえて釣り竿をふるその時は、全く自身と自然の対話である。人間社会に生きる私共、人間同志のふれあいをさせて生きることはできまい

が自然の中に帰るときが一番安らぐときと思う。それそれが、何か自然とのふれあいを求め、自身の楽しみを探がし求めるのもそれ故と思うのです。

私達が幼ない頃、よく耳にしたことに「よく遊べ、よく学べ」という言葉がある。「よく遊べ、このことは決して怠惰な人生を指してはいいまい。いや返つて私共の生きざまに深い意味を持つ言葉であろう。

人生を豊かに生きた思いを確かなものにするためにも、本当の遊びを知ることが大切と思うのです。

皆さんも今、社会人として、妻として、母として様々な人生を、精一杯生きておられようが、遊び心、も失つて欲しくない。いやこそさらに大事に、そして貴女の人生をより豊かに生きられることをお祈りしたい。

## 共に生きる



昭和28年卒業  
よと長沢(旧姓海老名)

七月の市議選に、ぜひ女性代表として出馬して欲しいとの要請を受けた時、とんでもない事と主人を始め私も、堅く辞退しました。

身障者や、支持者のお願いでお受けする板目になりました。S35年厚木に住んで母親としてボランティアや民生委員活動を通してのみの生活から、一変して議員として行政には市民一人ひとりの命の貴さが尊重され、人間として誇りをもつて安心して生活出来る施策を求めて続け、私は純粹にこの方の苦しみを共に分かち合い手をたたさえて行く、愛とぬくもりのある街づくりを目指して行こうと決心致しました。2千余票を、私に寄せて下さった多くの市民の皆さんや、同窓会の皆様のご声援に対し、厚く御礼申し上げます。同窓会や、職員の皆様のご自愛を心よりお祈り致します。



# ♪ 来年もよなた……

「お父さん、そこに見えないの。  
魔王がいる。こわいよ。」

「かわいい坊や、おいでよ。  
面白い遊びをしよう。」

シューベルト作曲「魔王」は私の大  
好きな曲の一つで、とても感動しまし  
た。魔王のあの甘いささやき、まるで  
そこには魔王がいるようでした。舞台  
の上には魔王ならぬ岡村さんがひとり。

驚いたのは、あの声の大きさ、そして  
響き。声の空間とでもいうのでしょうか。  
奥行きのあるスケールの大きい、  
大胆な底の方から響いてくるような歌  
声。私は会場のやや後の方で、その歌  
声に圧倒されて聞き入っていました。

さすがに国際的なバス歌手岡村喬生さ  
んの歌声は会場全体に響きわたりまし  
た。私は、どちらかというとオーケス  
トラが好きで、特にヴァイオリンの音  
が好きですが、人間の声もこんなに素  
晴らしいものだつたんですね。最後の  
岡村さんと斎藤昌子さんのデュエット  
も素敵でした。

毎年九月十三日は母校の創立記念日、  
そして記念音楽会のある日です。私は  
もう、来年の音楽会が待ち遠しいのです。

安部美和子  
昭和62年卒



## 昭和62年度予算

### ■収入の部

科 目	予 算
縁 越 金	1,060,573
入 会 金	323,000
終 身 会 費	969,000
仮 受 け 金	1,620,000
雑 収 入	10,000
合 計	3,982,573

### ■支出の部

科 目	予 算
運 営 費	640,573
事 務 費	50,000
通 信 費	50,000
会 議 費	50,000
慶弔 費	70,000
人 件 費	100,000
激 励 費	300,000
雑 費	20,573
事 業 費	722,000
会 報	30,000
会 員 証	22,000
音 楽 会	0
研 修 会	350,000
総 名 薄	0
予 備 費	50,000
基 本 金	1,000,000
縁越金(仮受金)	1,620,000
縁 越 金	0
合 計	3,982,573

冬到来。近年、若者を中心に、  
雪を生活の中に積極的にとり込ん  
で、楽しもうとする動きがみられ  
ます。私達も大いに外に出て、雪  
国の生活を満喫してはいかがでし  
るというのも素敵です。

## 編集後記

### 大日本水産会 主催

### 「おさかな新郷土料理」コンクール水産庁長官賞受賞

## お魚せんべい山家風吹き寄せ

我妻奈美(3年生)

私は、米沢の郷土料理の一つ笹巻きをアレンジして、「お魚せんべい」を作りました。

### 【作り方】

- ①鰯、鮭、鰆はなるべく薄切りにして、塩と酒をふり下味をつける。
- ②①の水分をふき、片栗粉をたっぷりまぶして麺棒で薄く伸ばす。
- ③油を中温に熱して②をからりと揚げる。
- ④野菜類を薄切りにしてからりと揚げる。
- ⑤骨は低温でからりと揚げ、塩と一味唐辛子をふる。
- ⑥出来たお魚せんべいは溶かした黒砂糖に入れ、きな粉をまぶしておやつに。甘酢あんをからめて御飯のおかずに。粉チーズをかけてスナックに。そして、野菜と共に盛り合わせると、吹き寄せ風に変身します。



材料 6人分  
鰯…100g 鮭…100g 鰆…100g  
塩…小匙½ 片栗粉…適量 小麦粉…適量  
揚げ油…たっぷり さつまいも ピーマン  
青じそ 細竹 かぼちゃ 魚の骨  
黒砂糖…50g きな粉…適量 粉チーズ  
一味唐辛子…適量

甘酢あん  
だし…1カップ ショウゆ…大匙2  
酢…大匙2 砂糖…大匙2  
水とき片栗粉 大匙1 ごま油…大匙1  
塩…少々 とうばんじゃん…適宜

## 訃報

若林とく様 大正六年本科卒業

昭和五十一年より十一年間にわた  
って東京支部長を務められ、現在  
の関東支部隆盛の基礎を築かれま  
した。御功績に感謝申しあげます。

大滝とみ様 大正六年本科卒業  
門 佐智子様 昭和十三年師範科卒業  
高橋敏子様 昭和三十三年卒業

謹んで御冥福をお祈り申しあげます。

皆様ご自愛ください。